

令和6年 第3回北九州市立図書館協議会 会議録

日 時： 令和6年7月25日(木) 14:00～16:20

場 所： 北九州市立子ども図書館2階 大研修室

出席者

○委員(会長他12名、欠席委員2名)

北九州市立大学前図書館長	中尾 泰士(会長)
北九州市PTA協議会相談役	福田 百合加(副会長)
北九州市学校図書館協議会会長	本田 壽志
福岡県公立高等学校校長協会北九州地区会長	石川 一仁
(一社)北九州市私立幼稚園連盟理事	有田 裕子
(一社)北九州市保育所連盟副会長	伊賀良 昌宏
公募委員	山中 啓稔
北九州市社会教育委員	宮本 和代
北九州市婦人団体協議会監査	吉松 喜美子
北九州市障害福祉団体連絡協議会会長	林 芳江
北九州児童文化連盟理事	八木 真恵
九州国際大学図書館長	山口 秋義
公募委員	鈴木 研

○事務局(中央図書館長他9名)

中央図書館長	神野 洋一
中央図書館副館長、子ども図書館長	竹永 政則
中央図書館運営企画課長	藤原 定男
中央図書館奉仕課長	綾塚 由美子
中央図書館運営企画課庶務係長	田中 真徳
中央図書館運営企画課デジタル企画係長	田島 利晃
中央図書館奉仕課奉仕係長	堀尾 節子
中央図書館奉仕課資料係長	善家 三知代
子ども図書館企画係長	荒田 智代
子ども図書館学校図書館支援係長	北谷 真司

○傍聴者 なし

会議次第

- (1) 令和5年度北九州市立図書館の運営に関する評価について
- (2) (仮称)北九州市立図書館基本計画の素案について

議事

(1) 令和5年度北九州市立図書館の運営に関する評価について

北九州市立図書館基本計画の策定について、資料及び提示スライドに基づき、事務局から説明

<総括について>

(委員)

毎年、この評価の時期が早まっている。まとめることは大変かと思うが、我々や市民へのフィードバックを迅速にしている姿勢に敬意を表したい。

2 ページ目の参考資料の表にある貸出者数・貸出冊数等は、コロナ禍明けでいろいろな規制がなくなったにもかかわらず減っている。それは、システム更新で1週間休館したためということだが、この北九州市立図書館だけの実績なのか疑問に思った。どの館もこういう傾向なのか、近隣や他の政令市もこういう状況なのか。また、インターネットや電子書籍などの利用の影響で、図書館に足を運ぶことが減ってきたのであろうか。

一方、レファレンスは、令和元年度のコロナ禍前よりもむしろ増えている。レファレンスのどういう要素が増えているのか。市民の問題意識、課題意識、ニーズを考慮した選書にも影響してくると思う。このことは、この後にある基本計画素案についての議事にも影響することだと思う。

(事務局)

去年はイベントや講座などを普通にできるようになったので、貸出者数・貸出冊数は増えたと感じていたが、逆に減少していたということで驚いた。この傾向は、どの館も同様である。図書館システムの更新により、全館一斉に休館した影響が一番大きいと思うが、それ以外の要因については分析できていない。

レファレンスの件数については、レファレンスの種類もいろいろあって、統計は取っているが、公表するところまではいっていない。メールによる問い合わせも多く、深い内容を調べている利用者からは、喜んでもらっている。

(会長)

過去比較だけではなく、相対比較をすれば、全体の問題なのか、市だけの問題なのかというのは識別できると思う。

<視点1について> 意見なし

<視点2について> 意見なし

<視点3について> 意見なし

<視点 4 について>

(委員)

16 ページ①のWi-Fiと②のホームページに関して、Wi-Fiは、市内 14 館中 6 館で整備されているということだが、市民アンケートでも、Wi-Fiがないことを指摘されているし、公共機関の代表的な図書館、しかも政令市の図書館に整備されていないことが、非常に気になる。今後の計画について聞きたい。

また、ホームページは、昨年リニューアルされたが、リニューアル後の市民の意見について聞きたい。

(事務局)

Wi-Fi の整備については、現在、中央図書館では、学習室でのパソコン利用を試行実施していることに伴い、Wi-Fi環境を少し変更するなど、少しずつ取組を進めている。他の館については、予算の関係もあり、整備が進んではいないが、昨年度のアンケートの中でも、Wi-Fiに対する要望が強いということは十分認識しており、必要性は感じている。具体的にどうするということまでは、今話ができる状況にはないため、了承いただきたい。

ホームページについては、図書館のシステムの更新に合わせて、リニューアルをした。「今までのシステムに慣れていたので使いづらくなった」という意見もあるし、逆に、「スマートフォンやタブレットで見やすくなった」という意見もある。スマートフォンに図書館カードを表示する機能や、読んだ本の履歴が表示される機能などを追加して、利便性を図っており、全体的には使いやすくなったと思っている。

(委員)

中央図書館では学習室でパソコンが利用できるようになったというが、他の図書館ではどうか。首都圏の図書館ではビジネスコーナーがあったり、高校生も教材や課題がパソコンで出されたりする。そういう流れに従って、学習室での利用をOKにしたと思うが、パソコンのキーをたたく音などで苦情が来るとも聞いている。限られたスペースをどう分けているかなど、パソコン利用は他の図書館ではどうなってるか。

(事務局)

パソコンの利用は他の図書館では可能である。中央図書館では、利用にあたっては、区画を分けるなどして、静かに勉強したい方、パソコン使いたい方の両方に配慮した運用を、今、試行実施しているところである。

(会長)

④の子ども向け電子図書館の充実について、評価自体に異議はないが、貸出件数が減少傾向にあるということについて、理由や対策はあるか。

(事務局)

貸出件数が減少しているというのは、こちらとしても大変残念な結果である。小学校

1年生の子どもたちに毎年IDを配布して利用推進を図っているが、思った以上に広がらないのが実情である。学校に随時PRしながら、活用を依頼したり、大人向けの電子図書も充実させたりしているところである。あわせて、新しい利用者に関しては、わざわざ来館しなくても、インターネットでの新規登録を可能にするなど、少しでも利用が増えるように、こちらとしても努力をしているところである。

<視点5について> 意見なし

(2) (仮称) 北九州市立図書館基本計画の素案について

北九州市立図書館基本計画の素案について、事務局から説明

<「第1章 基本計画の策定に当たって」について>

(委員)

この位置づけの中に、北九州市障害者支援計画が挙げられているが、実際、この北九州市障害者支援計画の中では煮詰めて掘り下げていなかったなという反省があることを、お伝えしておきたいと思う。読書バリアフリーについても、本来、私どもで共通認識してこなければいけなかったと思っているが、やはり視覚障害の方たちのものだという、狭い認識でとらえていたことを反省している。

北九州市障害者支援計画は厚みのある計画だが、関連ページをめくっても、図書館について触れた部分がとても少ない。

(事務局)

図書館基本計画の中で、読書バリアフリーについてはもう少し掘り下げようとは考えている。先ほど編集方針で申し上げたように、全体的に簡潔にするようにしたので、この図書館の計画の中でも、ボリューム感としては一見少なくなるかと思う。ただ、ここに宣言することによって、具体的な取組については、適切に盛り込んでいきたいと考えている。

<「第2章 目指す姿と基本目標」について>

(委員)

基本目標3の「多様な主体とつながり、ともに成長する図書館」という項目では、「これからは社会教育施設として、個人や企業団体など様々な主体と手を取り合って、市民主体の地域づくりを支援していく」とある。当市は高齢化率が政令都市の中で一番高く、また健康寿命も平均より少し低いということで、社会教育施設としての図書館の役割が、今後さらに強く求められるのではないかなと思っている。認知症の老人がこれから非常に増えるとか、単身所帯が多くて、孤独になりやすい年配の方が多くなると言われている。高齢になってもパソコンやスマホを使える方もたくさんいるので、そういう人たちをうまく図書館につなげて、主体的な学び、そして成長していくことによ

て、北九州市の活力を下支えできるのではないかなと思う。そのようなことをもう少し入れていただければありがたい。

(事務局)

大変参考になる意見なので、表現に加えられるように館内で検討したいと思う。

(委員)

2 ページの図の下の方に、「専門機関と連携した支援」と「交流を楽しむ」の 2 つが、本日配られた修正版では、「つながり」と「学び」のところと、「つながり」と「やすらぎ」の両方にかかっている形で配置されている。これは理由があつてこうなったということによいか。

(事務局)

「専門機関との連携」は、「つながり」でもあり、いろいろな機関と連携しながら、情報を市民の皆さんに提供していく「学び」でもあるので、あえてまたがったところに配置した。また、「交流」についても、同様に、いろんな交流を通して「やすらぎ」と、連携をすることで「交流する」という意味で、境界のところに配置している。

(事務局)

委員ご指摘の通り、これは意図的に配置した。「学び」のところで特に意識したのは、「ビジネス支援」である。ビジネスの支援となると図書館の司書だけでは、経験が不足している。例えば、中小企業支援を行っている部署や商工会議所等と連携しながら、そういった目線で資料をそろえて、なおかつ、図書館の間口の広さを逆に向こうにも利用してもらい、市民が行きつかない専門機関に、図書館が連携してつないでいくという、そんなイメージで書いている。

交流についても、今年クーリングシェルターとして図書館が指定されているが、市民アンケートの中でも、本を読まなくても気軽に立ち寄れることを望む声が非常に多かった。図書館は、そういう人を取り込める非常にポテンシャルの高い場所である。誰でもずっと入れる図書館で、いろんな方を取り込んでいって、なおかつ、地域のつながりを作っていくということで、そういった意図をもって配置した。気付いていただき、本当にありがたい。

(委員)

4 ページの「目指す姿と4つの基本目標」について、目指す姿は「学び、やすらぎ、つながる図書館」で、基本目標でいくと、2 番目が「学び」、1番目が「やすらぎ」、3番目と4番目が「つながり」、「つなぐ」のようにになっている。この目標1の「誰もが利用しやすく」が、図書館のベースとなる機能で、この目標 1 の取組方針 1 と 2 が基本機能を充実させ、利用者の支援とその拡大となっている。おそらくこの 2 つは、目標 2、3、4 に繋がる場所であることから、目標 1 に持ってきたのだと思う。「目指す姿」は、図書館ということ考えると、「やすらぎ」より、「学び」が前にくる方が自然だと思う。

方針としては、目標1と目標2の順番を逆にして、「誰もが利用しやすく」というところは、ベースとして4つすべてにかかるというふうにすると、「学び、やすらぎ、つながる」の目指す姿と目標のつながりが自然になると思う。

(事務局)

この並びについて図書館の中でも、違和感があるという議論は確かにあった。ただ、今おっしゃっていただいて、基本目標1の取組方針1、2がベースになる部分なので、これはこっちに残しておきたい。取組方針3の「やすらぎ」と「交流」というのは、実は図書館のあり方(答申)では、「学び」の方に入っていたが、図書館の役割をまとめ直し、目標1に移動させた。「やすらぎ、学び、つながる」というキーワードの順番を見ると、違和感があるのは確かだが、図書館の基本機能をはじめに持ってくるということで、今のところ、この並びにしている。皆さんのご意見などを聞いた後、図書館内で検討したいと思っている。

(会長)

ここは結構大きなポイントである。目指す姿としては、「学び」が先頭に来るのが自然ではある。それをどう4つの基本目標と結びつけるかというご指摘である。これから検討して策定のスケジュールは大丈夫か。

(事務局)

スケジュール的にはできないことはない。図書館内でも、ここについては違和感あると言いながら、基本目標1の取組方針「図書館の基本機能の充実」は、最も重要という意見が非常に強くて、最初に持ってきている。基本目標1と2の入れ替えについては、再度検討させていただいた上で、あとは一任していただきたい。

(会長)

2 ページ目の図でいうと、「市民の心豊かなときを創造」となっているが、この「とき」をひらがなにしている理由はあるか。

(事務局)

ひらがなの方が、全体的にやわらかい感じ、親しみやすい感じが出せるということで表記している。あと、北九州市の基本構想・基本計画でも、ひらがなを積極的に使用しているので、方向性を揃えたいというところはある。

(会長)

「学び」は、漢字でよいか。

(事務局)

基準がはっきりあるわけではないが、「学び」は漢字で表記したい。

<「第3章 取組の方針と主な取組」について>

(委員)

マルチメディアデージーは、視覚障害者だけでなく、手が不自由な人や発達障害の人にも役立つということだが、そういったことが伝わっていない。デジタル化したいろいろな種類のものを使いこなす方法を獲得するための支援を、計画に組み込んでいただけたらありがたいと思う。

専門機関もあるが、発達障害者支援だとか、療育センターでは、デージー図書についての話題はあまりない。先ほどのキーワードの「学ぶ」ということにも関係するが、障害のある人が大人になったときに、リアルに人と交流することももちろん豊かさにつながるのだが、一人の時間を充実して過ごすべを子どものうちから獲得できないと、誰かに相手をしてもらわないと充実した時間を過ごせないということが起きる。子どものころからこういう図書につながるすべがいろいろあるということをもっと知らせたいなと思った。

もう一点、イベントについてもこの中に上がっているが、集合型のイベントだけでなく、zoomとかで参加できるような、配信型のイベントもできたらいいと思った。

(事務局)

デージー図書については、「アクセシブルな資料の収集・提供」という中に書き込んでいる。デージー図書が視覚障害の方のためだけではないということは、私どもも理解している。先ほどおっしゃられたように、資料を収集・提供するだけでなく、使い方をお知らせするとか、PRしていくことなども必要だと改めて感じたので、今後の取組に活かしていきたい。わかりやすい表現については、委員の意見を参考にして考えていく。

次に、集合型のイベントだけではなく、配信でもということについては、現在、計画に文章として盛り込まれていない。基本目標4、取組方針2の考えられる主な取組に、「デジタル化の推進」という項目があるので、そこに記載することを検討する。とても大事な視点なので、参考にさせていただく。

コロナ禍では、福岡県立図書館が職員向けの研修をデジタル配信してくれて、会場に行かなくても研修を受けることができた。自分たちが講座などのイベントを開催するときに、そういう形式が必要だという認識はあるので、今後は設備を整え、そういう取組もしていかないといけないと考えている。この件についても、どのような表現で盛り込むかどうかを、検討させていただきたい。

(会長)

基本目標1の取組方針1の「考えられる主な取組」のところを「視覚障害者等対象」という表現を「視覚障害者に限らない」という表現に考え直すということか。

(事務局)

バリアフリー法の中でも、「視覚障害者等」という定義があるので、その表現をそのまま引っ張ってきているところだが、わかりづらいようであれば、考えていきたい。

(会長)

それから、イベント等のオンライン配信というのは、取組方針 2 の「裾野拡大」の中に収めるのか。

(事務局)

「デジタル配信で講座を行う」ということは、「裾野拡大」でもよいし、「学び」の中でもよいと思う。また、やり方についてなので、基本目標 4 の「図書館サービスにおけるDXの推進」にも当てはまる。この内容を文言にして書き込むか、すでにある項目に含まれているとするかについては、検討させていただきたい。

(会長)

市民がこの計画を見たときに、「内容をイメージしやすいか」ということがこの会議のポイントだということであった。「市民に読み取ってくれ」というのはなかなか難しいので、いろんな人が見ても「含まれている」とわかるような表現を目指すべきだと思う。

(事務局)

ちょっと慎重な回答をしたが、バリアフリーについては、ご意見をお聞きして、その通りだと思った。特に 1 人でも図書館でゆっくり過ごせるようにするように、子どものうちから支援していくということが必要だと思った。少し考えさせていただきたい。

(会長)

委員の皆さんは市民の代表ということでここにいるので、市民として見たときにわかりやすい表現になっているかとか、或いはこういう取組が必要なのではないかとか、書き過ぎではないかとか、そういうご意見を伺いたい。

(委員)

6 ページの基本目標1－取組方針2の「考えられる主な取組」の一番下に、「ひまわり文庫や貸し出し文庫の充実」とある。

各小学校区に市民センターがあるが、子どもたちにとって、自分が歩いていける市民センターの存在はすごくありがたい。子どもや年長者が自分で行ける市民センターに、ひまわり文庫があるということは、すごくありがたいことだと思っている。ところが、そこに本があるだけでは、その本は生かされていないと思う。10 ページの基本目標 3－取組方針 1 の「考えられる主な取組」の一番上に、「図書館ボランティアの種類、活躍範囲の充実」とある。200 人を超える図書館ボランティアが養成されているので、図書館のサポートも大事だと思うが、できたら、このひまわり文庫のサポートをボランティアがすれば、例えば、本を順番に並べるとか、傷んだ本を修理するとか、掲示物を作るとか、お薦めの本の紹介を作るとか、そこにボランティアさんの手が入ると、ひまわり文庫も生きたものになると思う。さらに、子どもが多ければ、読み聞かせをするとか、いろいろな活動範囲が考えられると思う。

それからもう 1 つ、11 ページの基本目標4－取組方針1に、「図書館ネットワーク」と

書いてある。今すぐにとということではないが、将来、学校図書館と公共図書館が繋がっていくと思う。今、学校では、探求的な学びとか、いろんな調べ学習していて、単独の学校では、資料が間に合わないことがたくさんあると思う。そういう意味で、学校図書館と公共図書館とのネットワークということを考えていく必要があると思う。

(事務局)

学校とのネットワークについては、現在、学校から要請があれば、貸出セットという図書館の図書のセットを貸し出している。これから、市立図書館との連携はさらに必要だと思っているので、充実させていくように検討していきたいと考えている。

(事務局)

ひまわり文庫とボランティアの活動をリンクさせてはというご提案だが、これも大変参考となる視点だと思う。実際どういう形でできるかなど、今後、検討を進めていきたい。

(委員)

今のひまわり文庫についての意見だが、私も市民センターの様子を見ていて、ひまわり文庫は本当に大事なものだ理解している。ただ、ひまわり文庫を利用する人たちはふらっと来ることが多いので、ボランティアが常駐するのはなかなか難しい。市民センターの職員が対応している。例えば、市民センターが主催する子ども向けの講座などに来た方に、ひまわり文庫を紹介して、その時にいる読み聞かせボランティアや子育てサポーター等を取り込んでいくとよいのではないかなと思う。できれば職員さんや講座などに参加されたお母さんやお父さんなどにも読み聞かせボランティア講座に参加してもらいボランティアになっていただくなど、ボランティアの仕組みを作り、ひまわり文庫をサポートしていきたいと思う。

(事務局)

ひまわり文庫があまり利用されていないのではないかなと思っていたので、大事と言っていたら、ありがたく思う。市民センターと図書館の連携については、お互いに情報共有し、どちらも win-winになるような方法を今から考えていきたいと思っている。これからも、より使ってもらえるように工夫していきたい。

(委員)

電子図書館の ID が小学校 1 年生全員に配布されるが、6 年生の時点ではもうみんな ID のことを忘れている。うちの学校では子ども図書館に再発行してもらい、この 9 月に電子図書に初めて挑戦する取組を予定している。生徒数の少ない小さい学校から取組を始めて、その取組が広がっていけばいいと考えている。子ども図書館や教育委員会から、もっと学校に「電子図書館を使ってください」と PR してもらおうとよいと思う。

また、私がいた学校では、ビブリオバトルの取組を行っている。ビブリオバトルという

言葉すら知らない中学生もたくさんいると思うが、裾野を広げて、北九州市の全中学校でビブリオバトルができれば、読書活動が広がると思っている。以前は、「読書好きな子ども日本一」を目指そうと、北九州市は言っていたが、それがだんだんなくなっている。学校と子ども図書館、中央図書館が協力して働きかけていくことが必要だと思った。

(事務局)

我々も、読書活動を広げるために1つずつ働きかけを行っていきたい。合わせて、やっぱりコンテンツをしっかりとそろえて、電子図書館をしっかりと充実させていきたいと考えている。

(委員)

高校でも、学校の図書館の利用が非常に少なくなっているというのは事実である。今、スマホがあるので、活字離れは喫緊の課題だと思っている。もう今は、デジタルの波を抑えるのは難しいので、デジタルと紙の本の共存を図っていこうと高校では言っている。うちの高校では、調べ学習をするときに中央図書館を利用させてもらっているが、実際にいろいろなことを紙の本で調べることによって、紙の本のよさを体験している。デジタルばかりが先行している高校生にとって、その経験をさせるということが大きなポイントだと思っている。

先ほどのデジタルトランスフォーメーションの話の中で、市立図書館と学校の図書館が繋がるということは、非常にいいことだと私は聞きながら思った。

(委員)

生まれたばかりのお子さんに絵本を配る「ブックスタート事業」が、多分形を変えて続けられていると思う。今、保育園の子どもさんを見ると、目を輝かせて「スマホを見せて、見せて」という姿があるので、親御さんには、「スマホ見せないで、絵本読ませてください」と機会があれば話をする。ブックスタートのときに、図書館の案内などは同封しているのか。

(事務局)

「ブックスタート事業」は、「はじめての絵本事業」という名前が変わっており、昨年度いっぱい、母子手帳を受け取る時、セットとしてお渡ししている。そのセットの中には、図書館の案内や電子図書館の案内も一緒に入れているので、それを利用していただけるとありがたい。

(委員)

図書館を紹介する案内チラシなどがあれば、保育園経由で配布することができるかと、今話を聞きながら思った。保育所連盟は定例の施設長会議をしているので、そのときに案内してもらえれば、保護者に配布できる。小さいころからの働きかけで、活字離れをなくせるのではないかと考えた。

(事務局)

「はじめての絵本事業」で、子どもさんに絵本パックという絵本のセットを配付している。先ほどおっしゃったように、スマホの画面を見せたら、「見せて、見せて」とお子さんが言ってくるということだったが、今、電子図書館でも、実は乳幼児向けの絵本を用意していて、お子さんが1人でも楽しめるようなものもあるので、そういったものも利用していただければと思って、図書館の利用者カードの申請書と合わせて、電子図書館のチラシを同封して、多くの方に利用していただけるようにしている。

(会長)

いろんな先生方からご指摘があったように、図書館側から情報を発信していただければ、協力いただける方は大勢おられるので、そのような取組をされるといいのではと感じた。

(委員)

幼稚園なので、子どもたちに提供するのには絵本と児童書である。子どもたちは年長ぐらいになると自分で読むこともできる。もちろんそれはそれでとても素晴らしいことだが、できれば、お母さんやお父さんやおじいちゃんおばあちゃんの声での読み聞かせをしてくださいと薦めている。もちろん幼稚園の中にも、図書は置いてあって、教師もそこから、「今日はこの絵本を読もう」と本を手に取り、読み聞かせをする。それとは別に、図書館から毎月1回紙芝居が届けてもらっている。これがとてもありがたい。自分たちが選ぶと自分の好みで選んでしまうが、図書館の司書さんが選んだものの中には、自分たちがなかなか選ばないものも入っているので、それを子どもたちに提供できることは、とてもありがたく思っている。

また、うちの幼稚園の取組としては、年長は、一番近い戸畑図書館に年に1回、見学に行き、自分で好きな本を選んで借りて帰るようにしている。その繋がりを持たせていただけていることも、とてもありがたいなど思っている。苦手なお子さんの中にはいるが、この時期にしっかり本の中の世界に入って自分の世界を広げていくことは、本当に大事なことだと思っている。その体験で、本に関心が持てたことで、「あの本、先生から読んでもらった」とか、「司書の先生からも読んでもらって楽しかったから、あの本をまた借りに行きたい」とか、「この間読んでもらった本をまた図書館で借りてきたんだよ」という話も出たりするので、やはり、大人側からのアプローチは非常に大事だと感じている。

(会長)

11 ページの基本目標4-取組方針2「図書館サービスにおけるDXの推進」というところで、括弧の中に「レファレンスでの AI 活用」という表現があるが、これについて具体的なプランはあるか伺いたい。

(事務局)

具体的なプランはないが、今、生成AIがすごく進化してきて、北九州市も文書作成については、生成AIを活用しているような状況であるので、これからの世の中、これを無視していくことはできないので、可能性として入れている。

(会長)

内容はわかったが、あえて書かなくても、内部的にやっていただければいいのではないか。

(事務局)

今、レファレンスでの AI 活用というのは、新しいツールで、ChatGPTもどんどん良くなってきている。箱根の図書館では、先駆的に今使い始めており、そのような他の図書館でどのように使われているかも注視していきたい。AIに頼ることを考えてはいない。当然間違える回答もあり、業務で使って大丈夫かと疑わしいものもたくさんある。例えば、図書館の司書が AI を使いこなしながら、回答のスピードを速くしていくとか、参考となる情報を幅広く、素早く集めて、司書の目を通して、正確な回答をすることはできないかということを考えていきたいと思っている。

(会長)

今の発言を聞いて安心したが、AIを活用して司書を減らそうということも考えられるのではないかと思うので、繰り返しになるが、あえて表に出さずに、内部的に活用するという一方で、あえて表に出さなくてもよいのではないかというのが私の感想である。

<「第4章 計画の推進に向けて」について>

(委員)

成果指標の項目を上から見ていると、並び方に行ったり来たりがあると思う。例えば、蔵書に関わるものが2番目と6番目と別々にあるので、もう少し個々の並びを整理したほうがよいのではないか。

要は、インプットとして、図書館の基本的な蔵書とか、ハードの整備などを上に持ってきて、そのあとに実績である、利用登録とか、利用者満足度を並べた方が、アクションからアウトプットに向けての並びとしてわかりやすいと思う。

そのインプットのところでは、大きく3つ。1つ目が、資料・蔵書の整備。ここに先ほど言った2番目と6番目。2つ目が、施設・ハードインフラ系。Wi-Fi やバリアフリー、カフェ、会議室、交流スペースなど。このハードを成果指標にするかどうかは別としても、そういう施設ハードインフラ系の後に、3つ目として、ソフト系。例えば8番目のイベント・展示や7番目のボランティア、今後の新しいサービスがプラスされる。

アウトプットとしての実績も、大きく3つ。1つ目が4番目の登録状況。2つ目が、指標としてはないが貸し出し状況、ひまわり文庫の実績等。3つ目が、それを受けて市民の利用についてとして、5番目のレファレンスや3番目の新しいサービスの認知度、1番目の実際の利用満足度、9番目の読書好きな児童生徒の割合。このように並びを変

えていただくと、上流から下流に流れて、わかりやすいかなと思う。

もう一つは、一番右側のところに、「主に対応する項目」というのがあって、例えば1(1)となっているが、基本目標と取組方針の番号のことかと思われるが、そうするのであれば、3章の取組方針で括弧を全部つけるとかした方がよい。「主に対応する項目」は一瞬何のことかと思ったので、「基本目標と取組方針」とするなど、わかりやすくしていただきたい。

(事務局)

修正を検討する。

(会長)

委員から、インフラ系の指標がないという指摘があったと思うが、インフラ系の指標は作れるか。

(事務局)

目標としては、Wi-Fiも予算の許す限りで頑張っていくが、予算の確保が難しいので、そこは今書ききれてない。人を増やす、建物を扱うなどのハード面の運用は難しさがある。

(会長)

「読書好きな児童生徒の割合」というのは、定期的にとる指標か。

(事務局)

この項目は、毎年小中学校の児童生徒に実施している全国学力学習状況調査のアンケートに盛り込まれている。盛り込まれてないときは、こちらから別途アンケートを取ることとしている。

(会長)

読書好きな児童生徒の現状値が、意外に高いと思った。それが図書館に結びついてないということか、読みたいという本が図書館にないのか、わからないが、これは図書館が努力するということか。

(事務局)

学校と図書館が連携し、働きかけることによって、子どもの読書好きにつながってくると考えている。

(事務局)

項目の内容についても検討をお願いしたいが、わかりづらい表現や、読んでいて引っ掛かるようなところがあったら、後日でもよいので教えていただくと助かる。

<「資料編」について>

(委員)

1枚のA3の紙で、非常にわかりやすくまとめた「計画の概要」についてである。まず左側に3つ「市立図書館の現状」と「環境変化」、「市民ニーズ」とあるが、この3つで「現状」だと思う。

この市立図書館の現状と市民アンケート結果は、2023年現在になるのか。この現状と、目指す姿がいつからいつまでかが、端的にわかればいいと思った。

この左側の「現状」を、現状の1、2、3と番号を振ればよいのではないかと思う。その1、2、3をもとに、主な課題がその右側にあることになる。

ここで気になったのが、その「主な課題」についてだが、「課題」というと、「現状」と、「目指す姿」のギャップの表現で書かれていることが多い。市立図書館の現状でいくと、例えば、「活字離れがさらに進んでいる」とか、2番目の現状で「環境等の変化の対応が求められている」とか、3番目の「アンケート結果で市民から求められていることができていない」とかが課題だと思う。課題の右側に書いてある取組方針の内容と、主な課題の表現が同じになっている。課題は、普通、何ができてないとか、ここが伸び悩んでいるといったところが、普通の課題である。要は、現状を受けて、課題でなにができていないことととらえ、その裏返しとしてどういった対策をとるかというのが取組方針だと、我々ビジネス関係でも、大きな計画を作るときには、何ができてないのか、何をつぶさないといけないのか、その課題設定が非常に大事だと、若いときから叩き込まれてきた。何ができてないのかを端的にも書いた上で、その裏返しとして取組方針として具体的に何をプラスでやるか、アクションとして何を取るかという表現にすることが、計画を作るベースではないかと思い、問題提起をさせてもらった。

さらに、右側の目標や取組方針は連番がふられているのと同じように、今後も意見を言うとき、番号があった方が話しやすくなると思うので、現状でいけば3つ、課題でいけば7つに連番をふっていただくのがいいと思う。

(事務局)

検討させていただきたい。

確かに課題のところは、不足とか不十分とか書いている部分があるにもかかわらず、他のところは何々の対応だとか、これからすることも書いているので、この範囲に納まる中で、課題と読み取れるようにしたい。また、連番についても検討する。

(委員)

小倉城の上から眺めると、中央図書館の建物がすごく目立っていて、近くまで観光客が来ている。観光資源としてのこの図書館は、有名な方が設計してるし、建物を見てすごいなと思ってやってきたとき、市内の宣伝のコーナーがあれば、観光客を呼べると思う。

(事務局)

大変貴重な視点だと思う。基本目標 4—取組1に「建物の立地・文化的な価値を生

かした取組」に書き込んでいるが、どこかに書き込めるか少し考えたい。

(委員)

今、教育委員会で、部活動の地域移行についてのパブリックコメントが募集されている。今日話を聞きながら、令和 9 年に土日の中学校の部活動を地域移行にする予定で、土日のどちらか 1 回 3 時間以内、毎週でなくてもいいということなので、地域で読書クラブとか、図書館で読書ボランティアとかの講座が将来的にできるといいのではないかなと思った。「1 人の時間を過ごす」ということかなと思いついて聞いていた。別に誰かと、何かをせずとも、ちょっと出かけて読書時間を作るというようなことは、中学生とかにとって需要はあるのではないかな。大きな人数にはならなくても、そういう需要があれば、ボランティアをしている方もいるので、何かできるのではないかな。

私も今日話を聞きながら、たくさん学ばせていただいたので、自分の活動の中で生かせるところを生かしていきたいなと思った。私も、市民センターで、子ども向けのウクレレ講座を開くのだが、その時に絵本とのコラボを中に入れようと思っている。

(事務局)

今、教育委員会では、教育プランをちょうど作り変えているところである。前回、委員から「彩りのあるまち」だけでなく、他の「やすらげるまち」「稼げるまち」にも対応したらどうかというご意見をいただいた。その点をきちんと整理して、図書館基本計画が市のビジョンにつながるという形に持っていきたいと思っている。